

沖縄で相次ぎ観光投資

仙台的深松組

土木建築業の深松組(仙台市)は沖縄県での観光関連投資を本格化させる。沖縄本島などで宿泊施設を相次いで購入したほか、宮古島を拠点とする観光クルーズ船も入手した。総投資額は約11億円という。沖縄は国内外からの観光客が増え続けており、宿泊施設を中心に今後も投資を続ける計画だ。

購入した宿泊施設は宮古島近くの伊良部島(宮古島市)に立地する全6棟のヴィラタイプの施設

・宿泊施設 2カ所取得 ・宮古島はクルーズ船

と、沖縄本島北部の今帰仁村に立地する約10棟の同じくヴィラタイプの施設。購入金額はそれぞれ約4億円。両施設とも沖縄の古民家をイメージした高級感ある、たびのレシビ(仙台

市)に委託。それぞれ「ヴィラリゾート」「HOMANN CONCEPT 沖縄今帰仁」の名称で営業する。入手した観光クルーズ船は宮古島を拠点にする「モンブラン」(総トン数619トン)で、最大で300人程度の乗船が可能という。購入金額は3億円弱。ランチクルーズやディナークルーズなどで

宮古島周辺を運航しており、船底部分に設けた窓から海中の様子を眺めることができる。沖縄県への観光客は増加を続けている。同県がまとめた入域観光客統計によると、2017年度の総数は約957万人。近年は毎年10%程度のペースで増加しており、外国人に限れば20%を超えている。

こうした状況を背景に、深松組は沖縄での観光関連投資を今後も継続する考え。すでに伊良部島に約2500平方メートルの土地を購入。今後賃貸マンションと低価格ホテルの建設を計画している。

また伊良部島に隣接する下地島の下地島空港では、三菱地所が旅客ターミナルを整備中。整備後は国内・国際線の就航が期待され、観光地として一段の発展が見込まれるほか、空港関連施設の立地も進むとみられる。

同社は本業の土木建築事業でも沖縄進出を検討している。好調な観光業を受け関連施設の建設が相次いでおり、観光関連投資で築いたネットワークを軌道に乗せるとともに、積極的に東北を紹介して観光誘客につなげた」と話している。

まずは宿泊施設と観光クルーズ船に投資



今帰仁村で改装中のリゾートホテル



観光クルーズ船「モンブラン」

